

## 第3期芦屋市教育振興基本計画（令和3～7年度）の体系・骨子（案）

現計画の体系・骨子	現計画の振り返りからの主な現状と課題	前回策定委員会での意見	視点（重点課題）	第3期芦屋市教育振興基本計画の体系・骨子（案）		
				重点目標	基本施策	
<b>《めざす芦屋の教育》信頼される学校園と成熟した家庭・地域で育む豊かな人間力をめざす子ども像》</b> <b>《芦屋で育てる》夢と志をもって自らの未来を切り拓く子ども像》</b>	<b>重点目標1</b> <b>自らの未来を切り拓く「生きる力」の育成</b> (1)就学前教育の推進 (2)「確かな学力」の育成 (3)「豊かな心」の育成 (4)「健やかな体」の育成 (5)特別支援教育の推進	① 小学校教育につながる新しい保育内容を創り出す実践が望まれます。 <u>（事務点検）</u> ② ICT 機器を効果的に活用して児童生徒が主体的に考えを深めることが出来る授業づくりの研究が必要です。 <u>（アンケート調査）</u> ③ 子どもたちに、小学校段階から、将来に向けた夢や目標を持たせたり、将来の生き方を考え、また、キャリア指導の計画、計画を実践するための指導方法を研究することが必要です。 <u>（事務点検）</u> ④ 「全国体力・運動能力調査」の結果が4年連続基準値を下回っている原因の分析と早急な対策が必要です。今後も発達段階に応じた系統的な体づくりのためにスポーツを通じた幼小中連携が必要です。 <u>（全国体力・運動能力調査）</u>	○ 他計画のスローガンとの整合性をとってほしい ○ 多様な創造力、多様な人々の共生、国内外で活動する人、主体性の必要性等が改めて大事になってきている ○ だれかに教えてもらうのではなく、自ら学ぶ習慣を身につけることが大事 ○ 「自主的に考える」「自分で考える」「自分から意見を言う」ということが大事になってきている ○ 多様な社会で、個別のニーズが大きく広がる中で、「自分だけでよい」ではなく、「自分を大切にすることからこそ、みんなも大切にすること」であること、そのためには、教育を基につながることを大切にしたい ○ 便利な世の中になり、苦勞をするために使っていた能力がなくなってくる、身につけることを捨ててしまい、心地よさを優先している	<b>視点1</b> <b>個の成長を支援し、未知の状況に対応できる資質・能力を育む教育が必要</b> ・教育の出発点である就学前教育・保育から遊びを通じた学びに向かう力を育成することが必要です。 <u>（課題①）</u> また、主体的・対話的で深い学びを通して、課題を見つけ解決していく力を育み自分らしい生き方を実現するための力を育てるとともに、他者への理解や思いやりを育むため、道徳教育を推進することが必要です。 <u>（課題③）</u> あわせて、子どもたち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現に向けて、ICT 教育や情報活用能力の育成をさらに推進することが必要です。 <u>（課題②）</u> ・引き続き防災教育を推進し、より実践的な防災・安全教育を進めていくことが必要です。 <u>（課題⑦）</u>	<b>1 子どもたちの「生きる力」の育成と個を伸ばす教育の充実</b> (1)就学前教育の推進 (2)「確かな学力」の育成 (3)「豊かな心」の育成 (4)「健やかな体」の育成 (5)特別支援教育の推進	(1)就学前教育の推進 (2)「確かな学力」の育成 (3)「豊かな心」の育成 (4)「健やかな体」の育成 (5)特別支援教育の推進
	<b>重点目標2</b> <b>命と人権を大切にする教育の充実</b> (1)人権尊重の理念に基づく「共生」の心の育成 (2)子どもの内面理解に基づく生徒指導の充実 (3)防災・安全教育の推進	⑤ 教職員として望ましい行動や対応ができる人権意識の高い人材の育成を進め、人権を大切にした教育を充実させる必要があります。 <u>（アンケート調査）</u> ⑥ スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー・子ども家庭総合支援室との積極的な連携で学校だけでは対応できない事案について、解決に向けた指導を進めていく必要があります。 <u>（事務点検）</u> ⑦ 震災の体験を語り継ぐとともに、いざという時に、子どもが自ら身を守り安全を確保することができる能力を身に付けさせること、またその際の対応を検討することが必要です。 <u>（事務点検）</u>	○ 多様な社会で、個別のニーズが大きく広がる中で、「自分だけでよい」ではなく、「自分を大切にすることからこそ、みんなも大切にすること」であること、そのためには、教育を基につながることを大切にしたい ○ 便利な世の中になり、苦勞をするために使っていた能力がなくなってくる、身につけることを捨ててしまい、心地よさを優先している	<b>視点2</b> <b>誰一人取り残さない持続可能な社会を構築することが必要</b> ・時代に即した新たな教育を実践するためには、教職員の学び続けようとする活動を支えていくことが必要です。 <u>（課題⑤）</u> また、持続可能な地域づくりを目指して、家庭・地域・学校で、連携・協働を推進するための仕組みの構築を進めるとともに、子どもたちの質の高い学びの実現と豊かな育ちを支えることが必要です。 <u>（課題⑧⑨⑩）</u> ・子どもの体力の低下、運動能力の二極化が進んでいます。家庭・地域・学校の連携により、生涯にわたる心身の健康の保持に必要な知識、生活習慣を身に付ける取組みが必要で。 <u>（課題④）</u> ・一人ひとりの状況に応じた誰一人取り残さない適切な指導・支援を行うために、相談体制を充実をしていくことが必要です。 <u>（課題⑥）</u>	<b>2 命と人権を大切にする教育の充実</b> (1)人権尊重の理念に基づく「共生」の心の育成 (2)子どもの内面理解に基づく生徒指導の充実 (3)防災・安全教育の推進	(1)人権尊重の理念に基づく「共生」の心の育成 (2)子どもの内面理解に基づく生徒指導の充実 (3)防災・安全教育の推進
	<b>重点目標3</b> <b>子どもたちの学びを支える環境の整備</b> (1)教職員の資質向上の推進 (2)質の高い教育環境の整備 (3)学校園・家庭・地域の連携による支援	⑧ GIGA スクール構想の前倒しにより、ますます ICT の利活用が重視される中、子どもたちが学校・家庭において学べる手段や内容の提供を継続して進める必要があります。 <u>（事務点検）</u> ⑨ 児童生徒が良好な環境で学習活動を継続できるよう、子どもの安全面を最優先に計画的に学校施設設備の改修を行うことが必要です。 <u>（アンケート調査）</u> ⑩ 学校・地域・家庭の連携の場を継続して提供し、コミスク活動を通して地域の教育力の向上を図ることが必要です。 <u>（アンケート調査）</u>	○ 地域に大事にされる子どもであってほしい、そういう家庭であってほしい ○ 子どもたちに送るエールのようなものをつくってほしい ○ 家庭、保護者、地域、企業、行政のみんながネットワークを組むことが必要。そこにはリーダーシップをとる人が必要になるため、人づくりが重要 ○ コミスクのような場を通じた人づくりは、より高い芦屋市民力を育てていく	<b>視点3</b> <b>生涯を通じた学びによる豊かな人づくり・つながりづくり・まちづくりが必要</b> ・人生100年時代を迎えるにあたり、生涯にわたって学び、活躍できるように、学習活動や文化・芸術・スポーツ活動等に参加する機会や環境の充実が必要です。今後、人とのネットワークを育み、広く強くつながりあえる力を培うことで、地域コミュニティの維持・活性化や地域課題の解決に寄与する「学び」と「活動」の循環の形成が期待できます。 <u>（課題⑬⑭）</u> ・本市においては、平成20年度から、保護者・市民の参画と協働による「子ども読書のまちづくり推進事業」に取り組み、読書の大好きな子ども「ブックワーム芦屋っ子」の育成に取り組んできました。更なる「ブックワーム芦屋っ子」の育成を目指して、家庭、地域との連携を強化していくことが必要です。 <u>（課題⑪⑫）</u>	<b>3 地域社会総がかりの教育施策の推進</b> (1)教職員の資質・能力の向上 (2)質の高い教育環境の整備 (3)学校園・家庭・地域の連携による支援	(1)教職員の資質・能力の向上 (2)質の高い教育環境の整備 (3)学校園・家庭・地域の連携による支援
	<b>重点目標4</b> <b>読書のまちづくりの推進</b> (1)ブックワーム芦屋っ子の育成 (2)生涯にわたって読書に親しむ環境の整備	⑪ 読書活動を通じて豊かな人間性や確かな学力を育み、子どもたちの生きる力を育成すること必要がです。 <u>（事務点検）</u> ⑫ 新型コロナウイルスの影響によって、図書館サービスも大幅に制限せざるを得ない状況になったことも背景に、非常時において、資料提供等のサービスを継続できるシステムづくりが課題です。 <u>（アンケート調査）</u>	○ 芦屋のそれぞれの施設の頑張りだけでなく、「社会教育と学校教育」の連携の中で相乗効果を生み出していく時期にきている ○ ICT や新型コロナウイルス感染症でみえてきた「新しい生活様式」も含めて、新しい部分はあるが、変わらない部分も必ずある。つながり方が離れていても、心はつながっていないといけない ○ 「全般を網羅しなければいけないが、重点は何なのか」とか、「国の方針を参酌するが、芦屋らしさをだしていく」ということが必要	<b>視点3</b> <b>生涯を通じた学びによる豊かな人づくり・つながりづくり・まちづくりが必要</b> ・人生100年時代を迎えるにあたり、生涯にわたって学び、活躍できるように、学習活動や文化・芸術・スポーツ活動等に参加する機会や環境の充実が必要です。今後、人とのネットワークを育み、広く強くつながりあえる力を培うことで、地域コミュニティの維持・活性化や地域課題の解決に寄与する「学び」と「活動」の循環の形成が期待できます。 <u>（課題⑬⑭）</u> ・本市においては、平成20年度から、保護者・市民の参画と協働による「子ども読書のまちづくり推進事業」に取り組み、読書の大好きな子ども「ブックワーム芦屋っ子」の育成に取り組んできました。更なる「ブックワーム芦屋っ子」の育成を目指して、家庭、地域との連携を強化していくことが必要です。 <u>（課題⑪⑫）</u>	<b>4 人生100年を通じた学びの推進</b> (1)生涯学習の推進 (2)あしやスポーツ文化の推進	(1)生涯学習の推進 (2)あしやスポーツ文化の推進
	<b>重点目標5</b> <b>多様な学びのできる生涯学習社会の構築</b> (1)生涯学習の推進 (2)生涯スポーツの推進	⑬ 市民アンケートから、仕事や家事、学業のほかに、学んだり活動したいと思うこととして、「日常生活・家庭生活に役立つもの」「教養を高めること」「文化・芸術活動に関するもの」「職業や資格に関するもの」について潜在ニーズが高くなっています。芦屋市内にある学習資源を活かしながら、学習しやすい日程、内容等を工夫していくことが重要です。 <u>（アンケート調査）</u> ⑭ 市内のスポーツ施設を青少年がもっと使いたくなるような環境整備や行事等の企画実施によって、生涯にわたってスポーツを愛好する意識を高める工夫が必要です。 <u>（事務点検）</u>	○ 芦屋のそれぞれの施設の頑張りだけでなく、「社会教育と学校教育」の連携の中で相乗効果を生み出していく時期にきている ○ ICT や新型コロナウイルス感染症でみえてきた「新しい生活様式」も含めて、新しい部分はあるが、変わらない部分も必ずある。つながり方が離れていても、心はつながっていないといけない ○ 「全般を網羅しなければいけないが、重点は何なのか」とか、「国の方針を参酌するが、芦屋らしさをだしていく」ということが必要	<b>視点3</b> <b>生涯を通じた学びによる豊かな人づくり・つながりづくり・まちづくりが必要</b> ・人生100年時代を迎えるにあたり、生涯にわたって学び、活躍できるように、学習活動や文化・芸術・スポーツ活動等に参加する機会や環境の充実が必要です。今後、人とのネットワークを育み、広く強くつながりあえる力を培うことで、地域コミュニティの維持・活性化や地域課題の解決に寄与する「学び」と「活動」の循環の形成が期待できます。 <u>（課題⑬⑭）</u> ・本市においては、平成20年度から、保護者・市民の参画と協働による「子ども読書のまちづくり推進事業」に取り組み、読書の大好きな子ども「ブックワーム芦屋っ子」の育成に取り組んできました。更なる「ブックワーム芦屋っ子」の育成を目指して、家庭、地域との連携を強化していくことが必要です。 <u>（課題⑪⑫）</u>	<b>5 読書のまちづくりの推進</b> (1)ブックワーム芦屋っ子の育成 (2)生涯にわたって読書に親しむ環境の整備	(1)ブックワーム芦屋っ子の育成 (2)生涯にわたって読書に親しむ環境の整備